

臨床工学技士の職務ストレスが 心身の健康に及ぼす影響

○ 両角奈美¹・楳本知子²

(¹社会医療法人厚生会木沢記念病院・²東亜大学人間科学部)

目的

近年、医療工学の発展により、医師の補助をする医療機器専門技術者が必要とされ、1987年6月に臨床工学技士法が成立した。患者の生命に直接関わる業務の多い臨床工学技士ではあるが、ワーク・ライフ・バランスや労働安全衛生への関心や取り組みはまだまだ少ないと言える。

本研究では、臨床工学技士の QOL (quality of life) 向上の観点から、臨床工学技士に特有な職務ストレスが心身の健康に及ぼす影響を明らかにすることを目的とする。

方法

対象者 両角・楳本 (2016) に参加した臨床工学技士計 203 名 (男性 162 名) を対象とした。平均年齢は男性 32.91 歳 (SD 8.34)、女性 30.39 歳 (SD 5.97) であった。

属性と業務内容 平均職務経験年数は男性 9.97 年 (SD 7.63)、女性 8.00 年 (SD 5.39) であった。主な業務内容が透析・機器管理である対象者は計 62 名 (男性 46 名)、急性期業務である対象者は計 139 名 (男性 114 名) であった。

質問紙 ① CEJSS (両角・楳本, 2016) : 臨床工学技士特有のストレスを測定する質問紙で、業務環境および専門技能ストレスの 2 下位尺度、計 19 項目からなる。各項目に対して、過去 1 か月間の経験頻度を「全くない 0 点」から「よくあった 3 点」、主観的嫌悪性を「全く嫌ではなかった 0 点」から「非常に嫌だった 3 点」の 4 件法で回答を求める。両者の積を各項目得点とし、各下位尺度を構成する項目の平均得点を各下位尺度得点とする。

② GHQ28 (中川・大坊, 2013) : 「身体的症状」「不安不眠」「社会的活動障害」「うつ傾向」の 4 因子、計 28 項目からなる。本研究では、最近 1 か月間の状態について、4 件法で回答を求めた。

結果

GHQ28 の各下位尺度を目的変数、性、年齢、経験年数、業務環境および専門技能ストレスを説明変数として重回帰分析を行った。その結果、身体症状とうつ傾向は、業務環境ストレスに

よって高まるが (順に $\beta = .419, p < .001$; $\beta = .235, p < .01$)、専門技能ストレスによる影響はいずれにおいても見られなかった。不安不眠と社会的活動障害では、業務環境および専門技能ストレスのいずれも増強要因であることが示された (不安不眠: $\beta = .337, p < .001$, $\beta = .149, p < .05$, 社会的活動障害: $\beta = .346, p < .001$, $\beta = .251, p < .01$)。

次に業務内容を透析・機器管理と急性期業務に分け、同様の重回帰分析を行った。その結果、身体症状と不安不眠は、いずれの業務も業務環境ストレスが増強要因であることが示された (身体症状: $\beta = .504, p < .001$; $\beta = .389, p < .01$, 不安不眠: $\beta = .335, p < .01$; $\beta = .329, p < .01$)。専門技能ストレスは、急性期業務においてのみ不安不眠を高める要因であった ($\beta = .218, p < .05$)。

一方、社会的活動障害とうつ傾向では急性期業務においてのみ、ストレスによる悪影響が見られた。社会的活動障害は業務環境および専門技能ストレスにより強まり (順に $\beta = .412, p < .001$; $\beta = .249, p < .01$)、うつ傾向は業務環境ストレスのみが増強要因であることが示された ($\beta = .309, p < .01$)。

考察

本研究の結果、業務環境ストレス得点が高くなると心身の健康状態が低下することが示された。業務環境ストレスとは、多忙さのような業務の量的な負担や患者対応、他の臨床工学技士との関わりなどであることから、身体的、精神的な負荷となりやすいと考えられる。専門技能ストレスが高くなると不安不眠と社会的活動障害を高めることが示された。これは専門技能ストレスが専門家としての独自の知識や技術を求められるものであり、業務の質的な負担により緊張のような精神的な負荷となりやすいためであると考えられる。しかし、そこには同時に専門家としてのやりがいも存在するため、うつ傾向には影響しなかったと考えられる。

臨床工学技士の心身の健康の維持・向上のために、今後の研究で、CEJSS の 2 因子それぞれにカットオフポイントを設定することが望まれる。